大牟田における うたごえ運動の概観(2)

製作支部　荒木　榮

〃うたは闘いとともに〃という「闘い」の内容を、生活や思想との関いといつた広義の解釈にまで発展させ得なかつた活動家たちの、うたごえ運動の本質にたいする信念の欠除がみられた。

× × ×

○ しかし、そのような内部の矛盾にも拘らず、八幡における第二回九州のうたごえ（九月）は、鉄鋼の闘いを背景に大きく発展し、大牟田からも数多いサークルが参加した。つづいて第七回日本のうたごえには、うたう会主催の映画「夜明け」やその他のカンパにより、十名の代表を送つた。

この中には既成の合唱団からも二名参加してもらつた。このようにして客観的には大牟田におけるうたごえ運動もその高まりを反映しつづけた。翌三十年、長崎における〃原爆許すまじ〃〃第三回九州のうたごえ〃参加のための活動、カンパ運動と参加者が原爆反対の気持で統一された感激から、ふたたびうたごえ運動の本質に対する取組みが行われた。

うたは闘いと共に

○ 数多くのうたごえ祭典、うたごえの交流会、各民主団体の各種の催しへの参加がおこなわれ、各サークルともその都度成果をあげながら、なお、うたごえの方向、運動のありかた、内容と技術の問題などが、いつもしつかり地につかない原因はどこにあるのかということが考えられた。

その一つに「うたごえに組織がない」ということがあげられた。映画愛好者が映文協という組織をもつているように、うたごえサークルにも横のつながりを強めるための連絡協議会をつくろうという声がでてきたが、各サークルとも、自分たちのサークルの運営が精一杯という現状におわれ、まとまつた声にならず日を送つた。

× × ×

〃うたごえ〃は一年ごとに発展していく

○ 同時にサークルをつくつても指導者がいないという現象もおきてきた。西鉄、市労連など三鉱では各支部のサークル員で比較的に技術をもつた人たちが集り、各支部におけるうたごえの職場活動をすすめる「三鉱合唱団」を結成したが、指導者とは何か？という自覚の欠除がレツスンのやりかたをあいまいなものにし、技術のとらえかたも皮相的であつたため長くはつづかず、またそれをキツカケに各活動者間に不信と意見の分裂がおこつた。

× × ×

○ 昭和三十一年三月、三鉱はふたたび四十三日におよぶ職場要求闘争に突入した。会社のロックアウトをうけて、組合員の闘争意欲はもりあがり〃民独〃はふたたび大牟田の空をどよもした。〃もやせ闘魂〃などの新しい創作曲がうまれ、うたごえは組合旗とともに闘いの先頭にたつた。

六月に中央合唱団第二回目の公演がおこなわれ、うたごえの本質を明らかに指し示した。このときの公演受入れは演劇協会がやり、うたごえサークルは自発的に協力団体としてアツピールと入場券売りをやつたが、うたごえの公演を他団体に主催させたことは組織のない弱さとして反省され、ふたたび合唱連協結成の声があがつたが、内部充実論におされて、ついにその運びに至らなかつた。

× × ×

○ 三鉱では、はじめての集団創作として十月に組合歌「すみ掘る仲間」をうみだし、組合歌に新しい分野をひらいた。

× × ×

○ このころから組合運動の方針のなかに「サークル活動を重んずる必要性あり」との声が出はじめ八月の長崎原爆祭、九月の大分における第四回九州のうたごえには正式にうたごえの代表を参加させつづいて十一月の日本のうたごえにも組織代表として十名以上をおくつた。

職場におけるうたごえ活動が点検され、宮浦、潜務、三煉、東臣青婦部にサークルがうまれ、他のサークルでも内部の悩み、技術上の問題などが話しあわれた。水曜コーラスでは「大牟田のうたごえ第一集」の創作曲集が刊行された。

× × ×

○ 合唱連協結成を目標にその具体的運動の展開として、指導者養成、うたごえ運動上の意見の統一を目的として、各サークルのメンバーによる「大牟田青年合唱団」が結成（九月）され、十月には第二回の「大牟田のうたごえ」がもたれた。大牟田のうたごえ運動を推進してゆくために青年合唱団の成長は期待されていたにもかかわらず、レツスンのすすめかたや目的にたいする意見のくい違いから翌年二月には解散の憂き目をみた

うたごえは平和の力

○ 昭和三十二年二月、佐賀でひらかれた「うたごえ教室」に参加した人たちは、うたごえ運動の内容を正しくとらえて帰つてきた。職場活動が十分でないこと、技術の習得の仕方が一面的であり（何をどうたうか）という態度に欠けていたことが反省された。

× × ×

○ 十月の全国自由労組大会には地元の自労のサークルによる集団創作が生れ〃手〃〃にくしみの中から〃の三曲が全国にひろめられて来た。

× × ×

○ センター合唱団は、メーデー以降の活動の中で、ふたたびそのあり方に対して意見の対立が起り個人的感情も混つて、多数の人が団から去つた。合唱劇による表現法に対する批判も起きたが技術に対する意見の相違、引いては運動の本質に対する意見の対立が主であり、これは現在もなお存在している問題である。

× × ×

○ 三鉱では、日本のうたごえに参加した各支部の代表が参加後、幾回か例会をもち、三鉱内における合唱連協結成に向つて進み始めた。同時にそれまでまだ未結成のサークル、及びレツスンを中止していたサークルの活動を進めはじめ、四山と三川にサークルが生れた。

× × ×

○ 昭和三十三年六月、全九州合唱団会議は第六回九州のうたごえの開催地を大牟田に決定した。これはいままでの九州のうたごえ祭典のもち方に対して、色々検討が加えられた結果、演奏交流の方法を改めることが理由としてたげられたが、そのことよりも、現在うたごえ運動がややもすれば本質を見失い勝ちの状態にかんがみ、〃うたごえは闘いと共に〃〃うたごえは平和の力〃というスローガンをはつきり認識する意味に於て、炭坑の街としてあらゆる闘いを闘つて来、現在も闘つている大牟田が選ばれたのであつた。

× × ×

○ 結論

過去五カ年に及ぶ大牟田地区のうたごえ運動をふりかえり、結論として次のようなことがいえる。

㋑ 限られた一部の人の内面的な芸術性の追及としての合唱から労働者の共通した気持を外に向けてうたうたごえに変つたこと。

㋺ それは炭坑の闘いを中心にあらゆる労働者の闘いによつて、闘いがうたごえを生み、うたごえが闘いを支える相互関係として育ち、労働者に音楽の本当の姿を理解させて来たこと。

㋩ うたごえ活動家の間に、うたごえ運動の本質と、そのすすめ方に対する意見の対立が起り、それがサークルの内外を通じて、いろいろの形でうたごえの組織活動をきまたげて来たこと。

㋥ 組合とサークルの関係が次第に明らかになり「サークルを育てることは組合を強めることになる」と双方の自覚の高まりから、サークルのあり方に対し、また組合に望むことについての誓意の批判要望が出て来たこと。

㋭ 創作活動は個人の努力から次第に集団のものになつて来たこと、その中でよりよい労働者的感覚が望まれて来たこと。

右の結論からわれわれは大牟田におけるうたごえ運動が、労働者の組織と団結をつよめ、全国のうたごえ運動とともに、原水爆に反対する運動をはじめ、あらゆる平和運動に役立つことを確信し、また個人の生活感情をより豊かにするようこびを身につけながら、現状においてのいろいろの障害をしりぞけ、犯して来たあやまちを素直に反省し全サークルがまとまつた考え方のもとに相助け合つて前進し、うたごえの歴史をより美しくかざりたいことを望むものである。

（はす）

映画

働く若い恋人たちのある日の断面を描く 裸の太陽

真夏の太陽がぎらぎらと照りつけ谷間に油ゼミの声が潮騒のように満ちる渓谷を、するどい汽笛をならしながら黒煙をあげて列車が疾進してくる。そのボロ機関車にはハンドルをにぎる機関士の崎山と助手のカマ焚き木村が、破裂しそうな通気孔の音と、まきこんでくる煤煙や真赤にもえるカマの火とたたかいながら全身汗ぐつしよりになりなつて運転している。木村には同じ町のレース工場で働いている崎山の妻房江の妹ゆき子という恋人があつた。

将来を誓いあつた若い二人は乏しい給金をせつせと貯金して結婚資金を十万円にするのが夢だつた。崎山は房江の出産予定日を明日にひかえて、何となくおちつけなかつたが、木村はめずらしくも公休日がゆき子と一緒になるかけがえのない明日を海水浴で楽しもうと彼女と一緒に市へ海水着を買いに行くプランでうきうきしていた。しかしゆき子とおち合うことにした駅へ行く途中、一人しよんぼりと歩いている惨めな前田と出逢い今朝の盗難事件に前田が無関係なのを確めると悲痛な気持で貯金を全部貸してしまうのだつた。

木村はホームにかけつけ、汽車をとびのつて待ちくたびれていたゆき子に謝まつたが、彼女は共同の貯金を自分に相談もなく、あんな酒のみの競輪気狂いに貸すなんてひどすぎる海水浴にも行けないと怒つた。【十五日から東映系封切館で】

文春 なるほど本棚 (6)

戦争の罪悪と残虐性

「侵　略」

「この本が〃サンコウ〃というあの残虐な……」

「〃サンコウ〃とはどんなことですか」

「三光政策ともよばれて、殺光、焼光、略光（殺しつくし、焼きつくし略奪しつくす）のことです」

私は、大正時代に生れ、昭和になつて初等教育をうけましたが、当時の指導層ににぎられた日本の帝国主義教育のおかげで、朝に夕べに戦争を教えこまれ、軍国主義についての批判どころか天皇を神格化し、死を鴻毛よりも軽しとする殉国の思想をたたきこまれました。そして第二次大戦中、五年の戦場生活をおくりました。昭和二十年八月十五日平和をむかえたけれども、侵略戦争にかりたてられ人間性を失い、皇軍、聖戦の美名に酔い、焦土抵抗、祖国を守るため、民族の滅亡をかけても闘おうなど悪夢からさめず、悲憤慷慨したものです。

十三年後、民主主義を学び、人権、人命の尊さを理解したいま、私の頭の中で天皇の権威や軍服に対する信を失つてしまいました。

日本人が、日本の軍隊が中国の大陸で犯した罪悪のかずかずが、この本にかかれた十六名の帰還者たちの告白によつて反省されなければならないと思います。

戦争の痛手は国内でもまだまだたくさん残つています。広島や長崎の原爆罹災者は毎年数十名の人がまだまだ働ける人生に、楽しい人生に終止符をうつている。

一人の父や、母や、夫や、妻や子が死んだとき、親せき、友人が集つて弔いをしますが、戦争はもつと多くの人を殺し悲しませます

われわれ日本人は、戦争のもつ残虐性を深く理解し、侵略戦争によつて犯した罪の深さを反省しなくてはならないのです。戦争の苦しみや、恐怖を知らない青年も是非一読すべき本であると思います

いまの時点において日本と中国の平和と友好は世界の平和を維持するため大きな支えになることです。新しい戦争の危機をはらんでいる国際情勢の中で二度と戦争をおこさせまいとする決意を固めるために、国民全体が戦争と平和をみつめるためにこの本は反省の中から平和を呼びかけているのです

（はす）

中国帰還者連絡会編
新読書社編　二四二頁　二〇〇円

心のふるさと

御嶽詣での信者より伝わる 木曾節（長野県民謡）

〃木曾のナ　仲乗りさん
木曾の御タケさんは
ナンジヤラホイ　夏でも寒い
ヨイ　ヨイ　ヨイ

〃袷ナ　仲乗さん
袷やりたや　ナンジヤラホイ
足袋添えて　ヨイ　ヨイ

〃川のナ　仲乗さん
川の鳴る瀬と　ナンジヤラホイ
鹿の声　ヨイ　ヨイ

〃霧のナ　仲乗りさん
霧のかからぬ　ナンジヤラホイ
山はない　ヨイ　ヨイ

〃うたいナ　仲乗りさん
うたい踊れよ　ナンジヤラホイ
声張り上げて　ヨイ　ヨイヨイ

〃笠にナ　仲乗りさん
笠に木の葉が　ナンジヤラホイ
舞いかかる　ヨイ　ヨイ　ヨイ

「木曾節」と檜は木曾地方の代表的なものであります。

この唄は「仲乗りさん節」とも一名よばれ長野県地方に古くから伝わつている民謡です

仲乗りさんとは木曾川を下る筏に大体三人ほど乗つていますが、その真中に乗る人をさして、この地方では呼んでいるようです。

この「木曾節」は筏歌として生れたものでなく、江戸の中期（一七四〇年ごろ）御タケまいりの信者によつて、木曾山一帯に口伝てにうけつがれた「お座敷唄」だつたのです。

明治の中ごろより素朴な盆踊唄として一般大衆にひろめられ、いまでは代表的民謡として日本全国の人たちに親しまれています。

しかし、全体としては情緒のみにとどまることなく、大自然のなかに働く雄大さ――山奥で木こりたちが伐木し、その木を運ぶ生産への原動力の根源をつくりだしていることを忘れてはならないと思います。

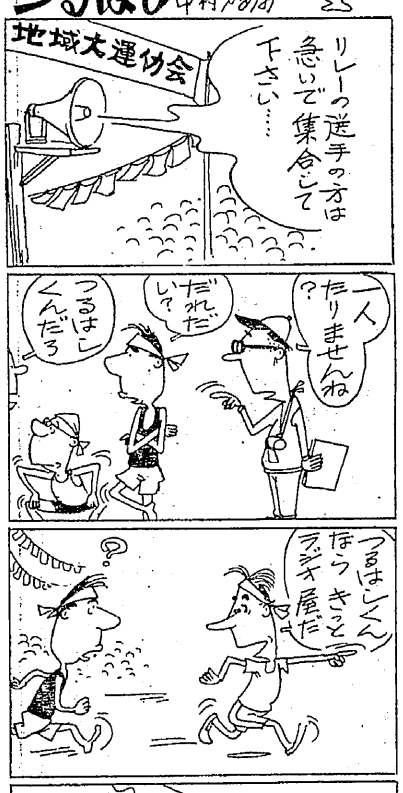
歌詞のなかには、いろいろと名所旧蹟や木曾地方の産物などがずらりとすみずみまでうたわれています。

羅列されてうたいこまれ〃ナンジヤラホイ〃のハヤシ言葉にも他の民謡と異つたおもしろさがあるようです。

木曾路に心細く散りかかる落葉や金剛杖の御タケさんもうで姿の行者群など、ここならではの風情がみうけられるようです。

静かで平和な山間部に、昔とかわることなく、こだましている生活の歌・素朴な踊りを想像するときに、酒宴の席上でうたう騒乱な「木曾節」だけにとどめられている傾向のあるのは残念至極にたえません。

私たちも、なごやかな雰囲気をつくるために、ぜひとも「サークル」をかこみながら歌い踊つて友情を深めようではありませんか。

（やました）

ミスター つるはし 中村かめお